平成２８年度

大竹市教育委員会点検・評価報告書

（平成２７年度事業対象）

平成２８年９月

大竹市教育委員会

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
第２６条 教育委員会は，毎年，その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，その結果に関する報告書を作成し，これを議会に提出するとともに，公表しなければならない。
２　教育委員会は，前項の点検及び評価を行うに当たっては，教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

本市では，第５次大竹市総合計画「わがまちプラン」の将来像である「笑顔・元気・かがやく大竹」の実現に向けて，市民と行政がともに考え，担うまちづくりを進めています。

大竹市教育委員会といたしましても，“大竹を愛する人づくり”と“心にゆとりを感じるまち”の基本目標に基づいて，学校教育及び生涯学習の施策の充実を図るとともに，各種事業に取り組んでいるところです。

この「大竹市教育委員会点検・評価報告書」は，「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき，教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について，点検及び評価を行い，その結果をとりまとめたものです。

市教育委員会では，この制度が導入された平成２０年度（平成１９年度事業）から，効果的な教育行政の推進を図るとともに市民の皆様への説明責任を果たすため，学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施してまいりました。

この度，平成２７年度の取組状況の点検・評価を実施しましたので，ここに報告いたします。この結果を活かし，今後とも，第５次大竹市総合計画に掲げられた「住みたい，住んでよかったと感じるまち」の実現に向け，引き続き努力してまいりたいと考えています。

平成２８年９月

大竹市教育委員会教育長　　大石　泰

目　次

Ⅰ　教育行政施策の点検・評価の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　施策別評価シート

1　評価シートの見方 ・・・ 3

2　総務学事課 ・・・ 5

(事業番号)①　保・幼・小連携事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

②　教育推進事業 ・・7

③　不登校等対策 ・・8

④　小中学校施設整備事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

⑤　奨学金貸付事業 ・・10

⑥　学校における食育の推進 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

⑦　教育振興事業 ・・・12

3　生涯学習課 ・・13

(事業番号)⑧　家庭教育・子育て支援事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

⑨　青少年教育健全育成体制の推進事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

⑩　子ども居場所づくり事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

⑪　２１世紀を担う人材育成事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

⑫　勤労青少年ホーム運営事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

⑬　社会教育推進事業 ・・19

⑭　人権推進事業 ・・・20

⑮　放課後児童クラブの運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

⑯　生涯学習施設の維持管理事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

⑰　生涯学習推進事業 ・・23

⑱　スポーツ推進事業 ・・24

⑲　文化財保護事業 ・・・25

⑳　文化祭等開催事業 ・・26

㉑　社会教育施設等の再編 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

Ⅲ　教育委員会の活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

参考資料 ・・・36

・大竹市専門委員設置要綱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

・大竹市教育委員会外部評価実施要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

Ⅰ　教育行政施策の点検・評価の概要

１　目　的

平成２０年４月から施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により，教育委員会は，毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について，自己点検及び評価を行い，その結果を議会に報告するとともに住民に公表することが義務づけられました。

この点検・評価は，市民誰もが豊かな人生を全うできる教育行政の推進に資するとともに市民に対する説明責任を果たすことを目的としています。

２　点検・評価の対象及び実施について

本市では，平成２３年３月に第５次大竹市総合計画「わがまちプラン」を策定し，教育委員会の事務を含め市全体としてまちづくりの基本目標を定め，さらに，基本目標ごとに，主な施策の取組方向に基本方針と数値目標を掲げて，まちづくりを行っています。教育行政と一般行政の調和を図る観点から，教育委員会独自の目標を設けるのではなく，平成２８年３月に策定された「第５次大竹市総合計画後期基本計画（計画期間：平成２８～平成３２年度）（以下「後期基本計画」といいます。）」に掲載されている事業であって，平成２７年度に実施された事業について，次のとおり教育委員会の事務の点検及び評価を実施しました。

※　昨年度は「平成２５年度大竹市総合計画　実施計画（平成２５～平成２７年度）」に掲載されている事業について点検・評価を実施しましたが，今年度の点検・評価は，後期基本計画が策定されたことに伴い，対象を後期基本計画に掲載された事業の中から改めて選定し，後期基本計画中の新たな指標により将来を見据えて点検・評価することとしました。

（１）　対象年度

平成２７年度

（２）　実施方法

教育委員会が評価シートにより自己評価を実施するとともに，学識経験者である次の外部評価専門委員に，教育委員会の評価を踏まえての意見をいただきました。

＜外部評価専門委員＞

竹 野 英 敏　　広島工業大学情報学部知的情報システム学科教授
畠 中 和 樹　　元公立中学校長，元広島教育事務所生涯学習課長
二階堂百合子　　元公立小学校校長

3　点検・評価結果の概要

後期基本計画に掲載されている事業のうち，教育委員会の所掌の事業を選定し，その目的または目標に照らし合わせて総合的に評価（内部評価）しました。

結果判定等は次表のとおりです。引き続き，事業の目的を達成するため，効果的な事業の実施に努めるとともに，目標とする成果が得られなかった事業については，社会情勢や市民のニーズを把握した事業展開を行うなど，目的達成に向けて，より一層積極的な取り組みを行っていきたいと考えています。

（1）判定結果

区　分	目標以上の成果を達成	概ね目標の成果を達成	目標とする成果が得られなかった
施策数	5	１３	3
割　合	23.8%	61.9%	14.3%

（2）今後の方向性

区　分	現状のまま継続	見直しし，継続	完了	廃止	休止・一時中断
施策数	１３	8	－	－	－
割　合	61.9%	38.1%			

Ⅱ　施策別評価シート

評価対象は，「後期基本計画」に掲載されている事業から選定しました。

＜評価シートの見方について＞

○　事業名，担当課名，担当係名

「後期基本計画」に掲載されている事業（大事業の名称）を事業名とし，担当課名及び担当係名を記載しています。

１　事業概要（ＰＬＡＮ）

（１）総合計画後期基本計画施策体系

「後期基本計画」の「基本目標」，「施策の方向」及び「主要な施策」の分類を記載しています。

（２）（H31 年度末に）めざす姿

「後期基本計画」に掲載されている「４年後（平成３１年度末）にめざす姿」を基に記載しています。

（３）実現に向けての課題

「後期基本計画」に掲載されている「実現に向けての課題」を基に記載しています。

２　実施状況（ＤＯ）

（１）実施内容

当該事業の内容を記載しています。

（２）実績

「後期基本計画」に掲載されている「指標」，「平成２６年度現況値」及び「平成３１年度目標値」を基に，年度ごとの目標値及び実績値を記載しています。（年度ごとの記載が困難な場合は「→」を記載しています。）

（３）コスト

平成２６年度から平成２８年度の事業費（人件費を除く。）の決算額または予算額と，内訳として一般財源の金額を記載しています。

３　結果判定及び今後の方向性（ＣＨＥＣＫ＆ＡＣＴＩＯＮ）

（１）結果判定

判定結果を次の３つの選択肢から選択しました。目標を達成したかどうかは２（２）の実績欄の指標項目別に実績値が目標値を上回ったかどうかを基に総合的に判断しています。なお，「（説明）」欄に結果判定の理由及び関連する説明を記載しています。

〈選択肢の説明〉

目標以上の成果を達成	全て又はほとんど全ての指標項目で目標値を達成できた場合に選択します。
概ね目標の成果を達成	目標値をほぼ達成できた場合又は複数の指標項目がある場合で，達成項目数が未達成項目数を上回った場合に選択します。
目標とする成果が得られなかった	全ての指標項目で目標値を達成できなかった場合又は達成項目数が未達成項目数を下回った場合に選択します。

（2）今後の方向性

今後の事業状況について，次の５つの選択肢から当てはまるものを選択しました。

〈選択肢の説明〉

継続（現状どおり）	取組内容の見直しなく，現状のまま継続する場合に選択します。
継続（変更・改善）	取組内容を変更・改善し，継続する場合に選択します。
完了	事業を当該年度に完了した場合に選択します。
廃止	事業を翌年度廃止する場合に記入します。
休止・一時中断	休止・一時中断した場合に選択し，事業を行わない期間の年度を記入します。

今後の事業費について，次の３つの選択肢から当てはまるものを選択しました。また，「取組内容」欄に，今後の取組内容を記入しています。

〈選択肢の説明〉

拡大	事業を拡大する場合に選択します。
概ね現状どおり	事業規模を拡大・縮小する意図がなく，概ね現状どおりで事業展開する場合に選択します。
縮小	事業を縮小する場合に選択します。

４　評価委員意見

外部評価専門委員からの意見を記載しています。

Ⅱ　施策別評価シート

総務学事課

（事業番号）①　保・幼・小連携事業

②　教育推進事業

③　不登校等対策

④　小中学校施設整備事業

⑤　奨学金貸付事業

⑥　学校における食育の推進

⑦　教育振興事業

平成27年度

評価シート

事業番号①

事業名	保・幼・小連携事業	担当課名	総務学事課
		担当係名	教育指導係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	① 幼児期の教育
(2)(H31年度末に)めざす姿	○小学校と保育所・幼稚園が連携し，学校生活に必要な基本的生活習慣を身に付けるための体制ができています。	
(3)実現に向けての課題	○小学校の環境に対応できない子どもが増えています。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○既存の保・幼・小連絡会を活用し，小学校入学前に生活習慣の基礎が身に付くよう，保育所・幼稚園・小学校が連携して取り組むための協議会(小学校区単位で入学後に実施)を開催します。 ○各組織の長が会議の場で情報交換することで連携して取り組みを進めます。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
保・幼・小連携協議会の実施回数	目標値	－	1回	1回	1回	2回	3回
	実績値	－	1回				

(3)コスト 単位：千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	0	0	(0)
うち一般財源	0	0	(0)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○各小学校いずれも入学前に幼稚園や保育所を訪問したり，入学前に新入学児童と在籍児童の交流の場を設けることで，児童の実態把握を行っています。また，入学後に小学校において保育所・幼稚園合同の会議を設けています。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり)　■ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H　年度～H　年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○今後は，入学前にも学校・保育所・幼稚園合同の会議を開催できるよう，現在の取組みをさらに改善します。

4 評価委員意見

○平成29年度までの目標が1回に留まっているが，できるだけ早期に複数回の会議を開催すべきである。
○会議の回数を指標とするのは成果が判定しにくいので，新たな指標の追加も検討すべきである。
○会議を開催し連携して取り組んだ結果，子ども達がどう変わっていくのかがわかりにくい。指標の設定が難しい。

評価シート

事業名	教育推進事業	担当課名	総務学事課
		担当係名	教育指導係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	② 義務教育の充実
(2)(H31年度末に)めざす姿	○地域からより信頼される学校になっています。 ○児童・生徒が「生きる力」を身に付けています。 ○ふるさと「大竹」を愛する子供が増えています。 ○9年間を見通した連続性のある教育活動を推進し，中学校区での一貫教育が充実しています。	
(3)実現に向けての課題	○不登校や環境不適応による教室内のはいかい・いじめなど，さまざまな問題が生じています。 ○学校規律の徹底や，きめ細かな指導の展開など教育の質の向上が課題となっています。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○中学校区での小中一貫教育による学力向上を推進し，児童・生徒一人ひとりに，将来をたくましく生き抜く力が定着するよう育成します。 ○特別支援員・学級支援員を配置し，教育活動上，支援が必要な児童・生徒に対し学習活動などの支援を行います。 ○読書・学習活動上の支援を行う読書活動推進員を配置し，活動を推進することで，幅広い視野を持った心豊かな児童・生徒を育成します。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
「基礎・基本」定着状況調査の平均正答率(県平均との比較)	目標値	－	＋1.3pt	±0.0pt	＋1.0pt	＋2.0pt	＋3.0pt
	実績値	＋1.3pt	▲1.9pt				
全国学力・学習状況調査の平均正答率(県平均との比較)	目標値	－	＋1.3pt	＋1.3pt	＋1.5pt	＋2.0pt	＋3.0pt
	実績値	＋0.4pt	＋1.3pt				
体力・運動能力テストで県平均以上の項目数	目標値	－	12項目	13項目	13項目	13項目	16項目
	実績値	10項目	12項目				
特別支援員を配置した割合	目標値	－	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	100%	100%				
いじめの認知件数	目標値	－	17件	15件	13件	10件	10件
	実績値	17件	11件				

(3)コスト　単位：千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	21,544	21,416	(27,908)
うち一般財源	5,677	6,836	(8,540)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定	□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○学力向上を目指しましたが，課題の把握及び取組みが十分ではなかったため，「基礎基本」定着状況調査の平均正答率は県平均を下回る結果となりました。 ○支援が必要である児童生徒に対し，適切な数の支援員を配置しています。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり)　■ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間：H　年度～H　年度)
事業費	■ 拡大　□ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○主体的な学びを促進することで学力向上を推進し，児童・生徒一人ひとりに，将来をたくましく生き抜く力が定着するよう育成します。 ○近年，支援すべき児童が増加する傾向にあるため，児童数に応じて支援員を増員する等し，今後もより実態に合った効果的な支援体制を維持します。

4 評価委員意見

○支援員を配置して，子ども達がどう変わったかを把握しておくべき。支援員に実態を聞いてみる等して欲しい。
○大竹市が望む子どもの学力・体力が県平均との比較で良いのかどうか。大竹市の目指す指標が必要である。
○例えば，学力テストの結果を上から4層に分割して最下層を無くすというような目標でも良いのではないか。
○学力テストの正答率を上げることを目標とするのであれば，何らかの具体的な取組みが必要である。

平成27年度

評価シート

事業番号③

事業名	不登校等対策	担当課名	総務学事課
		担当係名	教育指導係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	② 義務教育の充実
(2)(H31年度末に)めざす姿	○児童・生徒が「生きる力」を身に付けています。	
(3)実現に向けての課題	○不登校や環境不適応による教室内のはいかい・いじめなど，さまざまな問題が生じています。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○学校では，継続的な家庭訪問や教職員複数体制による組織的な対応を行います。 ○こども相談室では，児童生徒・保護者・教職員の悩みや相談に応じながら，学習・生活面での支援を行います。

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
不登校の児童・生徒数	目標値	－	25人	23人	21人	19人	17人
	実績値	27人	20人				

(3)コスト 単位：千円	H26	H27	H28(予算)
事業費	4,030	4,251	(4,700)
うち一般財源	4,030	4,251	(4,700)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定	■ 目標以上の成果を達成　□ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○不登校児童生徒が徐々に減っています。また，全く学校に行けない児童生徒は数名となったため，これまでの取組みの成果が出ていると考えます。
(2)今後の方向性	
事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間：H　年度～H　年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○今後も学校・こども相談室と専門機関の連携を図りながら対応し，不登校児童生徒数を減らしていきます。

4 評価委員意見

○こども相談室を中心とした取組みの成果が出ている。
○各年度の指標はどのように設定したのか。(→徐々に減らしていきたいという考え方で設定した。)
○今後とも，目標数値にとらわれることなく，より積極的・効果的な取組みを期待する。

平成27年度

評価シート

事業番号④

事業名	小中学校施設整備事業	担当課名	総務学事課
		担当係名	教育総務係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	② 義務教育の充実
(2)(H31年度末に)めざす姿	○ふるさと「大竹」を愛する児童・生徒を安心して育成できる教育環境になっています。	
(3)実現に向けての課題	○施設の耐震化については，玖波小学校の改築により完了しますが，より安心な教育環境とするために，吊り天井等の非構造部材の対策や，老朽施設の改修が必要です。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○児童・生徒・教職員の安全と適切な教育環境を確保するとともに，災害時の避難場所となる学校施設の耐震化を進めます。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
学校施設の耐震化率	目標値	－	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	83%	100%				

(3)コスト　単位：千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	14,684	250,393	(931,806)
うち一般財源	0	140,055	(431,896)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定	□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○玖波小学校改築工事のため，玖波小学校は平成27年9月に予定どおり玖波中学校への一時移転を行ったことで，学校施設の耐震化率100%を達成しました。 ○平成27年度末には玖波小学校講堂の耐震補強工事が完了し，校舎の改築工事についても概ね予定どおり17%の出来高(建築主体工事)となっており，順調に工事が進捗しています。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H　年度～H　年度)
事業費	■ 拡大　□ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○平成28年度に玖波小学校改築工事が完了することにより，市内の全ての小中学校施設の耐震化が完了します。(平成28年度は改築工事を実施しているため，全体事業費が大幅に増加しています。) ○今後は，吊り天井等の非構造部材の対策や，老朽施設の改修を進め，より安全で適切な教育環境の確保に取り組みます。(平成29年度からは，玖波小学校改築事業の終了により全体事業費は縮小します。)

4 評価委員意見

○施設の耐震化は100%に達しており，積極的に取り組まれてきた成果であると考える。
○100%に達しており，平成28年度で事業は終了ということになるのではないか。(→今後，耐震化率以外の新たな指標を検討したい。)
○平成29年度以降は事業変更という形になると思う。

平成27年度

評価シート

事業番号⑤

事業名	奨学金貸付事業	担当課名	総務学事課
		担当係名	教育指導係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	③ 青少年の健全育成
(2)(H31年度末に)めざす姿	○優良な生徒であって，かつ経済的理由により修学困難な者に対して学資を貸付けすることで，就学を支援するとともに，有用な人材の育成を図ります。 ○大竹市に一定期間居住することを要件とした奨学金の返還免除制度を継続することで，奨学金を利用し，就学を終えた方が，大竹市に定住して活躍する姿を目指します。	
(3)実現に向けての課題	○平成24年度から奨学金免除制度を実施しているため財源負担が生じます。 ○奨学金返還免除を利用した方が継続して定住促進につながるよう効果を検証する必要があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○経済的理由により高校・大学などでの修学が困難な優良な学生に奨学金を貸し付けます。 ○奨学金制度利用者が利用を終えた後，市内に継続して2年間居住し，引き続き居住する場合には返還を免除し，定住を促進します。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
免除制度の利用者数	目標値	－	30人	43人	45人	47人	50人
	実績値	28人	41人				

(3)コスト　単位：千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	16,692	14,856	(18,864)
うち一般財源	16,692	14,856	(18,864)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定	■ 目標以上の成果を達成　□ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○新規貸付決定者(20人分)のために必要な予算を確保しています。貸付要件を満たし，申請した者全員を奨学生として採用しています。 ○卒業後，大竹市へ居住し，返還免除制度を利用する者が大幅に増え，目標値以上を達成しています。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断　(期間：H　年度～H　年度)
事業費	■ 拡大　□ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○学業等優良な生徒が経済的理由により高校・大学などで修学困難となることの無いよう，奨学金制度を周知し，貸し付けを行います。(新規貸付に必要な予算の確保を目指します。) ○返還免除制度について周知を行い，目標値として設定した人数の方に制度を利用してもらうことで，定住促進を図ります。

4 評価委員意見

○利用者が増えており，取組みの成果が表れている。
○これまで以上に，制度周知への取組みが大切である。

平成27年度

評価シート

事業番号⑥

事業名	学校における食育の推進	担当課名	総務学事課
		担当係名	給食センター

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	5 心にゆとりを感じるまち
	施策の方向	1 心の豊かさを育む取り組み
	主要な施策	③ 食育の推進
(2)(H31年度末に)めざす姿	○食に関する指導を学校教育活動全体で進めています。 ○地場産物(とくに大竹市産)が積極的に学校給食に利用されています。	
(3)実現に向けての課題	○教科等で学んだことを家庭での実践に結びつけるための食に関する指導の充実が課題となっています。 ○地場産物(大竹市産)を活用するため，地元農家と連携を図り，継続的に納品できる体制づくりが必要です。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○市内の教職員を対象に，食に関する指導の研修会を実施し，各学校における食育の推進を図ります。 ○地元の食材を学校給食に活用するために，産業振興課と連携し，地元の農業者・漁業者への理解と協力を深めます。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
学校給食における地場産物(広島県産)の使用割合	目標値	－	25%	26%	27%	28%	30%
	実績値	25%	25%				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	70,497	69,215	(78,598)
うち一般財源	70,444	69,158	(78,573)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○教職員を対象に，食に関する研修会を年2回実施することで，各学校における食に関する指導の共通理解を図ることができました。また，地場産物(大竹市産)の活用については，産業振興課と連携し，平成28年度から地元の食材を受け入れる体制が整いました。
○給食センターにおける学校給食調理・配送等業務に係る委託民間事業者の選考を行い，引き続き，民間事業者への業務委託が決定しました。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○学校における食育の推進が図られるよう，研修の実施及び給食内容の充実に取り組んでいきます。また，学校だけでなく家庭や地域へも積極的に情報を発信していきます。 ○地場産物(大竹市産)が継続的に給食センターへ納品可能となる仕組みを確立するために，関係者との連携をより一層深めていくことが必要です。 ○給食センターの運営については，民間事業者の専門性を有効に活用するとともに効率化等についても検討していきます。

4 評価委員意見

○工夫しながら積極的に食育に取組まれており，今後とも充実させて欲しい。
○センター運営の効率化を図れば経費は下がっていくと思うが，そのあたりの指標も必要ではないか。

平成27年度

評価シート

事業番号⑦

事業名	教育振興事業	担当課名	総務学事課
		担当係名	教育指導係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	5 心にゆとりを感じるまち
	施策の方向	2 大竹らしさを育む文化と交流
	主要な施策	③ 多文化共生の推進
(2)(H31年度末に)めざす姿	○英語指導助手を配置することで，小・中学生の英語力向上と教員の指導力を強化し外国語教育が充実しているとともに，地域レベルでの国際交流が進んでいます。	
(3)実現に向けての課題	○生きた英語や，他国の文化を直接学ぶ機会を設ける必要があります。 ○外国語能力やコミュニケーション能力の向上をめざし，本市の学校で学んで良かったと思えるような取り組みが必要です。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容　○小学校担当1人，中学校担当1人の英語指導助手が各学校を巡回します。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
英語指導業務に関するアンケートにおける「英語指導助手とのコミュニケーションの楽しさについて」の回答結果(最高100点)	目標値	－	96.0点	90.0点	92.0点	95.0点	97.0点
	実績値	95.8点	88.1点				

(3)コスト　単位：千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	9,052	9,052	(9,052)
うち一般財源	9,052	9,052	(9,052)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　□ 概ね目標の成果を達成　■ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○楽しく授業を受けることで，より英語に対する理解が深まります。その結果，外国語能力やコミュニケーション能力が向上します。しかし，7校中3校で回答結果が100点であったにもかかわらず，1部の学校で70点に満たない点数であったため，平均点が押し下がってしまいました。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)	□ 継続(変更・改善)	□ 完了
	□ 廃止	□ 休止・一時中断 (期間:H　年度～H　年度)	
事業費	□ 拡大	■ 概ね現状どおり	□ 縮小
取組内容	(説明) ○今後も英語指導助手の配置を継続することで，小・中学生の英語力向上と教員の指導力を強化し外国語教育を充実させます。 ○児童生徒が英語の授業をより楽しいと感じるよう，授業内容の見なおしを図ります。		

4 評価委員意見

○数年内に小学校高学年で英語が教科となることを踏まえ，いっそう強化して欲しい事業である。
○英語教職員の主観的評価とのことだが，点数の低い理由については，しっかりと把握し，次につなげて欲しい。

Ⅱ　施策別評価シート

生涯学習課

（事業番号）⑧　家庭教育・子育て支援事業

⑨　青少年教育健全育成体制の推進事業

⑩　子ども居場所づくり事業

⑪　２１世紀を担う人材育成事業

⑫　勤労青少年ホーム運営事業

⑬　社会教育推進事業

⑭　人権推進事業

⑮　放課後児童クラブの運営

⑯　生涯学習施設の維持管理事業

⑰　生涯学習推進事業

⑱　スポーツ推進事業

⑲　文化財保護事業

⑳　文化祭等開催事業

㉑　社会教育施設等の再編

平成27年度

評価シート

事業番号⑧

事業名	家庭教育・子育て支援事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	社会教育係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	① 幼児期の教育
(2)(H31年度末に)めざす姿	○子育て世代の精神的な負担を軽減し，家庭の教育力が向上するよう，子育て支援事業に取り組んでいます。 ○育児に関する不安を解消するため，情報の共有・交換を行っています。	
(3)実現に向けての課題	○核家族化が進み，情報が氾濫するなか，子育て環境に不安を感じている保護者が増えています。 ○かつては地域社会や近隣で支えてきた「子育て力」が，近年弱くなっています。 ○核家族化の進行や共働きの家庭が多く，育児に関する情報交換などの交流が難しくなっています。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○関係機関・団体と連携し，乳幼児とその保護者を対象とした「親子の絆づくりプログラム」，「こそだて塾ひよこルーム」，「親の力を学び合う学習プログラム」，「えほんでハートフル」など家庭教育・子育て支援に関する事業を行いました。 ○育児サークル活動を支援するため，場所を確保したり，合同運動会を行ったり，講座終了後サークル化を促したり，既存のグループを紹介したりしました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
家庭教育・子育て支援に関する講座数	目標値	－	13講座	13講座	13講座	13講座	13講座
	実績値	13講座	12講座				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	90	150	(196)
うち一般財源	79	134	(180)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK&ACTION)

(1)結果判定	□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○目標値13講座中12講座実施しました。1講座減の理由は，自主運営に移行し，講座としては実施しなかったものの自主運営で実施しました。全体としては現状維持です。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H　年度～H　年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○家庭の教育力向上につながる子育て支援事業を行います。 ○講座終了後，自主運営化できるグループは自主運営に移行するように働きかけ，より多くの人が子育て支援事業に参加できるよう工夫していきます。 また，既存のグループと連携を密にし，講師や場所の提供，会員を紹介するなど継続的な子育て支援をしていきます。 ○乳幼児期から絵本に触れ合うことで，豊かな心を育成します。

4 評価委員意見

○講座の回数を維持するだけでなく，成果をよくチェックしながら次の講座につなげて欲しい。
○参加して欲しい層が確実に参加できるような方策を考えて欲しい。

評価シート

事業名	青少年教育健全育成体制の推進事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	青少年育成係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	③ 青少年の健全育成
(2)(H31年度末に)めざす姿	○家庭・学校・地域が連携し，青少年を健全に育成する環境をつくります。	
(3)実現に向けての課題	○全国的に地域の連帯感が弱まり，豊かな人間形成の基礎となる家庭の養育・教育機能は低下しています。 ○青少年の健全育成をテーマにした定期的な講演会などは，関心のある保護者などの参加に偏る傾向があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○青少年問題協議会・青少年非行防止実行委員会を年1回開催し，青少年問題に対応するため，市内関係機関・団体などが連携を取りました。 ○「市民のつどい」「青少年育成講演会」「共同街頭補導」などの青少年健全育成事業を行い，青少年非行・被害防止に取り組みました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
青少年育成講演会の満足度(アンケート調査による「とてもよかった」のポイント率)	目標値	－	40.0%	45.0%	45.0%	50.0%	50.0%
	実績値	34.9%	41.9%				
市民のつどい・青少年育成講演会の参加者数	目標値	－	650人	650人	700人	700人	700人
	実績値	650人	615人				

(3)コスト 単位:千円	H26	H27	H28(予算)
事業費	728	947	(1,191)
うち一般財源	728	947	(1,191)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK&ACTION)

(1)結果判定	□ 目標以上の成果を達成 ■ 概ね目標の成果を達成 □ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○協議会や実行委員会において，情報の共有や連携は取れています。青少年問題は，問題行動が全くなくなることにはなりませんが，各団体の活動や継続的な取り組みにより安定した状況が継続しています。 ○「市民のつどい」「青少年育成講演会」「共同街頭補導」などの行事を継続的に実施し，青少年の被害・非行防止に，各団体と連携した取り組みができています。課題として，各行事の参加者が固定される傾向にあるといえます。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり) □ 継続(変更・改善) □ 完了 □ 廃止 □ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大 ■ 概ね現状どおり □ 縮小
取組内容	(説明) ○平成28年度は「社会を明るくする運動」において，大竹市が広島県西地区のモデル地区となりました。毎年実施している「市民のつどい」と共催し，市内外に向けた青少年問題を考える，より一層の機会となるよう取り組みます。 ○関係機関・団体との連携できている仕組みの維持に努めつつ，更なる強化を目指します。 ○講演会がなるべく多くの人が関心が持てる内容となるよう工夫します。

4 評価委員意見

○指標項目の青少年育成講演会のアンケート調査は「とてもよかった」のみであるが，「よかった」も入れるとどのくらいか。(→91%) 成果は十分あると言える。今後は「よかった」も指標に入れたらどうか。
○講演会の開催については，新聞等にも依頼して，しっかり宣伝をし，参加者を増やして欲しい。

評価シート

事業名	子ども居場所づくり事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	社会教育係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	③ 青少年の健全育成
(2)(H31年度末に)めざす姿	○家庭・学校・地域が連携し，青少年を健全に育成する環境をつくります。 ○将来の地域を担う人材を育成し，青少年がまちづくりの「推進力」となるよう，体験活動や交流を通して，自主性・自立心・社会性を育み，コミュニケーション能力や忍耐力など，社会を生き抜く力を培う学習機会を設けていきます。	
(3)実現に向けての課題	○全国的に地域の連帯感が弱まり，豊かな人間形成の基礎となる家庭の養育・教育機能は低下しています。 ○青少年が自然や人と触れ合う機会が減少しているなか，家庭・学校・地域が連携し，青少年の自主性・自立心・社会性を育む機会を充実する必要があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	【おおたけっ子らんらんカレッジ事業】 ○地域や企業・学校・各種団体などと連携し，長期休暇を中心に，物づくりや体験学習などの教室を実施しました。 【放課後子ども教室事業】 ○放課後の子どもたちの居場所づくりとして，地域の団体や生涯学習グループ，文化団体，企業などと連携し，様々な分野の放課後子ども教室(スポーツ・文化活動，体験活動など)を開催しました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
おおたけっ子らんらんカレッジの教室数	目標値	－	41教室	41教室	41教室	42教室	43教室
	実績値	41教室	39教室				
おおたけっ子らんらんカレッジの教室数(企業・学校連携)	目標値	－	8教室	9教室	9教室	10教室	10教室
	実績値	8教室	8教室				
おおたけっ子らんらんカレッジの参加者数	目標値	－	1,100人	1,100人	1,100人	1,100人	1,100人
	実績値	1,024人	1,275人				
放課後子ども教室の数	目標値	－	8教室	10教室	10教室	10教室	10教室
	実績値	8教室	10教室				
放課後子ども教室の登録者数	目標値	－	130人	130人	140人	150人	160人
	実績値	128人	174人				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	2,328	2,683	(3,120)
うち一般財源	1,178	1,043	(1,260)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK&ACTION)

(1)結果判定

■ 目標以上の成果を達成 □ 概ね目標の成果を達成 □ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○らんらんカレッジ事業では，教室数は減少していますが，参加人数が大幅に増加しています。増加の要因は，それぞれの教室に多くの子どもが参加したもので，ニーズに合った教室が開催できているものと思われます。

○放課後子ども教室では，小方小学校内において新たに体験型教室を立ち上げることができました。その他，玖波公民館の地域ジン講師による講座も実施し，子どもの数が減少する現代，本事業では教室数も登録人数も大幅に増加しました。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり) □ 継続(変更・改善) □ 完了 □ 廃止 □ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大 ■ 概ね現状どおり □ 縮小
取組内容	(説明) ○将来の地域を担う人材を育成するため，学校・地域・企業などと連携し，小・中学生を対象にした体験学習や交流の機会を充実していきます。 ○本市を愛する気持ちが芽生えるプログラムを盛り込むことで，本市の魅力を知ってもらうとともに，事業魅力を向上させます。

4 評価委員意見

○これまでどおり，市民ニーズの把握に努め，そのニーズに沿って，参加人数が減らないよう企画・推進して欲しい。

○地域の人材をしっかり活用しながら取り組んで欲しい。

評価シート

事業名	21世紀を担う人材育成事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	青少年育成係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	③ 青少年の健全育成
(2)(H31年度末に)めざす姿	○将来の地域を担う人材を育成し，青少年がまちづくりの「推進力」となるよう，体験活動や交流を通して，自主性・自立心・社会性を育み，コミュニケーション能力や忍耐力など，社会を生き抜く力を培う学習機会を設けています。 ○21世紀を担う人材育成事業に参加した小・中学生が，高校生・大学生・社会人になってもジュニアリーダー育成事業などに参画できる継続可能な体制ができています。	
(3)実現に向けての課題	○青少年が自然や人と触れ合う機会が減少しているなか，家庭・学校・地域が連携し，青少年の自主性・自立心・社会性を育む機会を拡充する必要があります。 ○21世紀を担う人材育成事業の参加者の多くが大学生・社会人になった際に市外へ転出しており，継続して参画しにくい状況です。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容

【ジュニアリーダー育成事業】
○未来を担う小・中学生が協力し課題を解決することを通じ，リーダーとして必要な力を身に付けられるよう，様々な体験活動やグループワークの機会を提供しています。集団宿泊を基本とし，年7回開催しました。学校や年齢が異なる参加者で班を構成し，中学生が主体となるよう働きかけをしています。高校生や大学生以上の事業経験者が企画・運営に参画してくれるよう取り組んでいます。

【中学生交歓交流事業】
○沖縄県豊見城市と互いの中学生を派遣し合い，平和学習や体験学習，施設の見学，集団宿泊などにより交流しています。2ケ年の事業で，1年目は豊見城市の中学生を本市に迎え，翌年に受け入れた中学生が豊見城市を訪問します。H27年度は2年目で，本市の中学生が豊見城市を訪問しました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
ジュニアリーダー育成事業の参加者数(小・中学生)	目標値	－	25人	25人	25人	25人	25人
	実績値	15人	29人				
ジュニアリーダー育成事業のリピーター人数(小・中学生)	目標値	－	10人	15人	15人	15人	15人
	実績値	6人	13人				
中学生交歓交流事業の参加者数(大竹市分)	目標値	－	10人	12人	12人	12人	12人
	実績値	10人	10人				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	1,180	1,412	(1,421)
うち一般財源	1,130	1,062	(1,361)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった

(説明)
【ジュニアリーダー育成事業】地域の方との交流や，大学や企業と連携したプログラムの実施など，外部と関わる活動を増やしました。
【中学生交歓交流事業】事前研修及び本研修で，参加者に将来の大竹を担う者として，まちづくりへの興味を持たせる目的で，本市の概況や地域の役割について考えさせたり，本市をPRするプレゼンテーションを行わせる取り組みを入れました。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) 【ジュニアリーダー育成事業】自ら発信することに重点を置き，マスコミへの訪問・体験・作成や地域・大学生・外国人・団体との交流・連携を予定しており，コミュニケーション力や忍耐力を高めていきます。初期の参加者であった社会人・大学生が関わってくれており，こうした参加者が核となった運営団体となるよう繋げていくことが目標です。 【中学生交歓交流事業】異文化交流と平和学習を目的にしています。事業間や事業後にアプローチをさせ，他の事業にも関わりを持てるような仕組みを取り入れ，将来の大竹市を担う者として，様々な活動に参画する人材を育成することが目標です。

4 評価委員意見

○ジュニアリーダー育成事業のリピーターと新規の人数は半々くらいが活動しやすいのではないか。理想の形を踏まえて事業展開して欲しい。

平成27年度

評価シート

事業番号⑫

事業名	勤労青少年ホーム運営事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	社会教育係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	③ 青少年の健全育成
(2)(H31年度末に)めざす姿	○勤労青少年の交流の機会が拡充しています。	
(3)実現に向けての課題	○勤労青少年ホームのサークル数が減少し，交流機会の減少と活動の停滞がみられます。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○サークル数・会員数の増加のため，サークルやイベントの紹介と会員募集の記事を市広報紙に連載しました。 (参考)登録人数は46名(H26年度39名)で，サークル数は3サークル(H26年度3サークル)，利用者会議やホーム祭を含めた年間延べ利用者数は1,464人(H26年度1,396人)でした。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
勤労青少年ホーム周知回数(広報紙・HPなどへの掲載数)	目標値	－	12回	13回	14回	15回	15回
	実績値	12回	12回				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	175	136	(217)
うち一般財源	175	136	(217)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成 ■ 概ね目標の成果を達成 □ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○市広報紙に関連記事を12回(会員募集を9回，活動紹介等を3回)掲載した結果，会員数が7名，年間延べ利用者数が68人増加しました。
○勤労青少年ホームを紹介するホームページを立ち上げるため，会員有志によるホームページ作成実行委員会が組織され，構成や内容などを協議しました。その結果が提案書として3月末に提出されたことを受け，ホームページの作成を開始しました。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり) ■ 継続(変更・改善) □ 完了 □ 廃止 □ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大 ■ 概ね現状どおり □ 縮小
取組内容	(説明) ○毎月の広報掲載による活動・イベント紹介と会員募集を継続するとともに，より青少年の関心をひく内容の記事を作成します。 ○勤労青少年ホームのホームページを完成し，facebookと連動して情報を掲載していくことにより，即時性・拡散性に優れたPRを行います。

4 評価委員意見

○新たにホームページを立ち上げる等，積極的に取り組まれている。
○交流の場に集めるのが難しい世代であり，情報発信や広報の仕方に工夫が必要である。

平成27年度

評価シート

事業番号⑬

事業名	社会教育推進事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	社会教育係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	1 地域を担う人づくり
	主要な施策	④ 社会教育の推進
(2)(H31年度末に)めざす姿	○自己研さんのための講座に加え，地域社会が抱える多様化・複雑化する課題に対応した学習の機会が充実しています。 ○生きがいや目的を持って活動する人が増えています。	
(3)実現に向けての課題	○少子化・高齢化や核家族化などによる地域活動の担い手の減少など，現代の地域社会が抱える様々な課題の解決のためには，市民の学習活動やボランティア活動を支援し，その成果を活用する機会を提供していく必要があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容

○地域の課題の解決を目的とした講座を実施しました。
○地域の絆づくり，高齢者の居場所・生きがい・健康づくりを目的とした講座を実施しました。
○現代社会における課題解決に向けた事業を実施しました。
○地域の伝統文化継承に向けた事業を実施しました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
地域の課題などの解決を目的とした講座数	目標値	－	8講座	8講座	9講座	10講座	10講座
	実績値	7講座	9講座				
公民館など開催する講座数(社会教育・生涯学習に関する講座)	目標値	－	100講座	100講座	100講座	100講座	100講座
	実績値	101講座	100講座				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	719	691	(910)
うち一般財源	719	691	(910)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○全国一の表彰を受けた玖波公民館を中心に地域課題解決事業を行いました。
○その他の館においても，地域の絆づくり，高齢者の居場所・生きがい・健康づくりを目的とした講座を多く実施しました。
○しかし，地域活動の担い手となり得る人材の育成が十分とは言えません。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)	□ 継続(変更・改善)	□ 完了
	□ 廃止	□ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)	
事業費	□ 拡大	■ 概ね現状どおり	□ 縮小
取組内容	(説明) ○市民の学習活動を支援し，将来の地域を担う人材の育成，地域・家庭の教育力の向上に向けた社会教育を充実していきます。 ○ライフステージに応じた学習機会を提供し，将来の地域を担う人材の育成地域・家庭の教育力の向上を目指します。		

4 評価委員意見

○地域課題の解決やまちづくりに関する講座を今後増やしていって欲しい。
○地区ごとの活動の特性を活かしつつ，自立した運営ができるようサポートが必要である。

平成27年度

評価シート

事業番号⑭

事業名	人権推進事業	担当課名	生涯学習課・(自治振興課)
		担当係名	社会教育係・(人権推進係)

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	1 大竹を愛する人づくり
	施策の方向	2 互いを尊重し，支え合う人づくり
	主要な施策	① 人権を尊重する人づくり
(2)(H31年度末に)めざす姿	○人権問題を自分の事として考える社会を構築するために，人権擁護委員・市民グループなどと連携して人権啓発を実施することにより，一人ひとりの人権が尊重される地域になっています。 ○誰もが参加しやすく主体的に学習できるよう，身近な問題などを取り上げるなど人権学習の機会が充実しています。	
(3)実現に向けての課題	○人権の意義や重要性に対して知識を習得するだけでなく，豊かな感性を育み，日常生活において，常に人権を尊重した行動ができる感覚を定着させる必要があります。 ○人権が尊重された地域社会の実現には，一人ひとりが人権問題を自らの問題として正しく認識するとともに，人権への配慮が自然に態度や行動に表せるようになることが必要です。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容

【人権教室】
○7月に川祭り花火大会会場で，人権啓発グッズ(うちわ)を配布しました。
○9月に人権花運動として，チューリップの球根と鉢，土を玖波小学校の児童に贈呈しました。
【人権に関する学習会】
○12月にゆめタウン大竹で人権啓発グッズ(カレンダー付メモブロックやクリアファイル等)を配布しました。
○3月に総合市民会館まつり会場で，人権映画映写会として「めぐみ」「対馬丸～さよなら沖縄～」を上映しました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
人権教室の開催数(人権擁護委員との共催)	目標値	－	4回	5回	6回	7回	8回
	実績値	3回	3回				
人権に関する学習会の開催回数(CAP事業を除く)	目標値	－	1回	1回	2回	2回	3回
	実績値	2回	1回				
人権に関する学習会の受講者数(CAP事業を除く)	目標値	－	110人	120人	130人	140人	150人
	実績値	114人	98人				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	106	0	(78)
うち一般財源	106	0	(78)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　□ 概ね目標の成果を達成　■ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○年間を通して，人権に関する学習会や啓発活動を計画的に行っていますが，より多くの市民に人権の意義や重要性について周知し理解を促すため，実施回数を増やす必要があります。
○多くの市民に親しみやすい映写会を開催しましたが，来場者数を増やすためには，内容や周知方法等に工夫が必要です。
※平成27年度の事業は，自治振興課と合同で実施したため，事業費はゼロとなっています。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり)　■ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H　年度～H　年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○自治振興課と連携し，教室や人権講演会などの学習機会を増やしていくとともに，受講者数の増加を図ります。 ○地区公民館等において学習会を行うことにより，地域住民が人権を学ぶ機会を設けます。

4 評価委員意見

○学習会や研修等の事業に，いかに人を集めるかを，よく検討して取り組んで欲しい。

評価シート

事業名	放課後児童クラブの運営	担当課名	生涯学習課
		担当係名	青少年育成係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	4 安心できるまち
	施策の方向	1 心が触れ合う福祉の充実
	主要な施策	② 児童福祉の充実
(2)(H31年度末に)めざす姿	○「子ども・子育て支援事業計画「H27年度-H31年度」の確保方策の達成に向けた取組により，子育て支援サービスがより充実しています。 ○平成27年度から拡充した放課後児童クラブの新たな需要に応えています。(利用対象を1～3学年→1～6学年に拡充)	
(3)実現に向けての課題	○放課後児童クラブの対象を平成27年度から拡充しましたが，既存施設の収容能力や支援員確保などの問題があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○主に保護者などが昼間いない家庭の児童を対象に，市内3クラブにおいて，さまざまな活動を通じて児童の健全育成に取り組んでいます。 ○緊急連絡などのためのメールシステムを導入し，保護者や児童が安心して過ごすことができる環境を整えました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
放課後児童クラブにおける低学年の待機児童数	目標値	－	0人	0人	0人	0人	0人
	実績値	0人	0人				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	29,570	31,004	(36,408)
うち一般財源	7,336	7,111	(9,606)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK&ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○平成27年度より，新制度に合わせて高学年の受入をしています。
○現在，あすなろ児童クラブは，建替中により空き教室で運営しています。平成28年度内に「学校併設型」として完成予定です。
○災害等の緊急時の連絡のためのメールシステムを構築しました。平成28年度から利用開始しました。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり)	■ 継続(変更・改善)	□ 完了
	□ 廃止	□ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)	
事業費	□ 拡大	■ 概ね現状どおり	□ 縮小

取組内容

(説明)

○高学年の受入れについても，希望する全ての児童を受け入れられるよう，学校の空き教室の使用など学校との連携，「放課後子ども教室」との連携を検討し，段階的に進めていきます。
○平成28年度完成予定のあすなろ児童クラブは，平成29年度の新施設利用開始に向けたハード面(移転作業)・ソフト面(条例等)の整備を進めます。
○児童の安全確保のため，緊急連絡メールシステム等を利用した適切な対応を図ります。

4 評価委員意見

○低学年の待機児童数ゼロの状態を続けて欲しい。
○待機児童の状況と併せて，登録児童数の状況も指標として加える等，児童クラブ運営の全体像が把握できるよう評価方法を工夫して欲しい。

平成27年度

評価シート

事業番号⑯

事業名	生涯学習施設の維持管理事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	施設スポーツ係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	5 心にゆとりを感じるまち
	施策の方向	1 心の豊かさを育む取り組み
	主要な施策	① 生涯学習の充実
(2)(H31年度末に)めざす姿	○生涯学習施設が地域活動の拠点となっています。	
(3)実現に向けての課題	○施設の老朽化に伴う維持管理費が増加しています。 ○安全で快適に利用できる施設となるよう，計画的な整備が必要です。 ○旧耐震基準で建てられた施設が多くあります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○スポーツ・文化活動の場として，安全・快適に利用できるよう，施設・設備の保全，改修を計画的に進めます。 ○旧耐震基準で建てられた生涯学習施設は，計画的に耐震診断を実施します。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
生涯学習施設(旧耐震基準)のうち耐震診断を実施した割合	目標値	－	→	→	→	→	66.7%
	実績値	33.3%	50.0%				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	139,308	170,973	(372,655)
うち一般財源	122,308	123,714	(128,181)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定	■ 目標以上の成果を達成　□ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○平成27年度に，昭和38年に建築し，53年が経過した大竹会館旧館の耐震診断調査を行いました。診断ではIS値が0.21となり，「地震の震動及び衝撃に対し崩壊し，又は崩壊する危険が高い」という調査結果になりました。 ○今後，旧館は解体して，一部機能を新館に移転し，新館は施設の利用方法を踏まえた改修・増築を行うため，平成28年度から，関係課において管理方法を含めた改修計画を検討します。 ○平成28年度は，アゼリアホール天井改修工事の繰越事業等によって予算額が増加しています。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○老朽化した施設が多いなか，安全・快適に利用してもらうため，施設・設備の保全，改修を進めます。 ○また，旧耐震基準で建てられた施設については，「社会教育施設等の再編基本方針各論」に従って，計画に添った耐震診断に取り組みます。

4 評価委員意見

○単年度の目標が立てにくい事業であるが，計画的に取り組んで欲しい。
○トイレの洋式化が遅れているように思う。耐震化と併せて施設内部の改善・改修も検討してもらいたい。

平成27年度

評価シート

事業番号⑰

事業名	生涯学習推進事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	社会教育係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	5 心にゆとりを感じるまち
	施策の方向	1 心の豊かさを育む取り組み
	主要な施策	① 生涯学習の充実
(2)(H31年度末に)めざす姿	○生涯学習施設が，地域活動の拠点となっています。 ○生涯学習が盛んで，心が豊かで生きがいを持っている市民が増えています。 ○生涯学習活動で楽しく学び合い，絆を深めることができています。	
(3)実現に向けての課題	○生涯学習活動による生きがいづくり，健康づくり，絆づくりなどの効果や取り組みを広めていく必要があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	【公民館等運営事業】 ○生涯学習グループの育成と，公民館まつりの開催など生涯学習活動の場と成果を発表・展示する機会を創出しました。 【図書館運営事業】 ○利用者のニーズに応えられるよう，図書・資料を確保し，貸出サービスやレファレンス(調べもの等の支援)サービスなどの読書推進活動に取り組みました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
公民館まつり・総合市民会館まつりの展示・発表グループ数	目標値	－	140グループ	120グループ	120グループ	120グループ	120グループ
	実績値	140グループ	126グループ				
市民1人当たりの図書館貸出冊数	目標値	－	4.9冊	4.9冊	4.9冊	5.0冊	5.0冊
	実績値	4.9冊	4.4冊				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	8,084	6,105	(8,080)
うち一般財源	8,084	6,105	(8,080)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK&ACTION)

(1)結果判定	□ 目標以上の成果を達成　□ 概ね目標の成果を達成　■ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○公民館まつりで展示・発表を行うグループ数が減少しました。理由は，アゼリアホール天井改修工事により，大竹会館において発表会が中止となったためです。 ○また，全体的に生涯学習グループ数も減少傾向にあります。 ○図書館の貸し出し冊数も昨年度より減少しました。(システムの入れ替えによる新書購入減によるものと考えられる。)

事業状況	■ 継続(現状どおり)　□ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○今後は市民の学習活動の場や成果発表の場が減少しないよう工夫を図って行きます。 ○図書館の貸し出し冊数が増加するように，貸出サービスやレファレンスサービスなどのサービスを充実させると共に，えほんでハートフル事業，おはなし会など読書推進活動も充実させます。

4 評価委員意見

○グループ数は減少傾向にあるのか。(→高齢化が進んでおり，若年層の開拓が必要) 積極的な支援に取り組んで欲しい。
○様々な制約はあると思うが，PR方法の工夫等で参加者数が減らないよう努力して欲しい。

評価シート

事業名	スポーツ推進事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	施設スポーツ係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	5 心にゆとりを感じるまち
	施策の方向	1 心の豊かさを育む取り組み
	主要な施策	② スポーツの推進
(2)(H31年度末に)めざす姿	○子どものスポーツへの関心・興味を高める教室が増えています。 ○生涯スポーツが普及し，高齢者などが元気に楽しく活動しています。 ○スポーツを推進するための指導者が増加しています。	
(3)実現に向けての課題	○子どもを対象としたスポーツ教室の開催が少ない状況です。 ○高齢者が気軽に参加できる生涯スポーツの種類が少ない状況です。 ○子ども向けのスポーツ教室の増加や新たな生涯スポーツを普及させるためには，既存事業を再編する必要があります。 ○スポーツ推進委員を増やす必要があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○子どもを対象としたスポーツ教室の増加に向け，教室の開催を委託するなど，体育協会と連携して取り組みます。 ○高齢者が健康で生きがいを持ち，地域社会で絆が深まるよう，参加しやすい生涯スポーツの普及に向け，総合型地域スポーツクラブと連携して取り組みます。 ○競技スポーツの指導者の育成に向け，指導者育成講座を委託するなど，体育協会と連携して取り組みます。 ○生涯スポーツの指導者の育成に向け，地区体育委員を対象とした研修を開催するなど，スポーツ推進委員と連携して取り組みます。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
スポーツ教室への子どもの参加者数(延数)	目標値	－	160人	190人	230人	260人	300人
	実績値	119人	203人				
市民参加型のニュースポーツ大会の開催数	目標値	－	3件	3件	3件	3件	4件
	実績値	3件	3件				
スポーツ推進委員の人数	目標値	－	18人	19人	19人	20人	20人
	実績値	18人	18人				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	10,241	12,076	(14,616)
うち一般財源	5,242	3,114	(5,108)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定	■ 目標以上の成果を達成　□ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○スポーツ教室への子どもの参加者数(延数)は，毎年開催している「スイミング教室」に加え，「広島東洋カープ少年野球教室」を開催したことで，目標値を上回ることができました。 ○市民参加型のニュースポーツ大会の開催数とスポーツ推進委員の人数は，目標値をクリアしました。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり)　■ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H　年度～H　年度)
事業費	■ 拡大　□ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○子どもにスポーツに接する機会を提供することで健全な成長・発達を促すとともに，高齢者等が生きがいを持ち，健康でいつまでも楽しく生活できる地域づくりを重点に置き，引き続き，ニュースポーツの普及に向け，総合型地域スポーツクラブと連携して取り組みます。また生涯スポーツの指導者の育成・増加に向け，地区体育委員を対象とした研修をスポーツ推進委員と連携して開催します。 ○平成28年度からは，子どもを対象したスポーツ教室や競技スポーツの指導者育成講座を体育協会に委託し，スポーツ教室への子どもの参加者数を増やすとともに，スポーツを推進するための指導者の増加に向けた取り組みを行います。

4 評価委員意見

○スポーツ教室への子どもの参加人数は大きく伸びており，成果が出ている。
○スポーツ関連団体と連携し，競技人口の増加や競技力アップに向けて，子ども達が興味を持つ仕掛けづくりが必要と考えられる。

評価シート

事業名	文化財保護事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	社会教育係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	5 心にゆとりを感じるまち
	施策の方向	2 大竹らしさを育む文化と交流
	主要な施策	① 歴史，伝統文化，地域行事の保存・継承・活用
(2)(H31年度末に)めざす姿	○郷土の歴史，伝統文化の継承に関心を持つ人が増えています。 ○市内に点在する文化財や郷土の歴史を学ぶ機会が提供されています。	
(3)実現に向けての課題	○少子化・高齢化の進行や地域コミュニティの衰退により，地域の伝統文化などの保存・継承が困難になっています。 ○関係団体の会員の高齢化が進んでおり，後継者の育成が困難になっています。 ○郷土の歴史などに興味を示さない市民が多くなっています。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○文化財の保全・継承・活用・調査研究を行います。 ○郷土の歴史や伝統文化の継承に向けた講座を開催します。 ○郷土の歴史や伝統文化を市民に紹介します。 ○文化財を保存・活用するため，文化財審議会を設置します。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
郷土の歴史や伝統文化の継承に向けた講座数	目標値	－	3講座	4講座	6講座	8講座	9講座
	実績値	8講座	3講座				
広報紙への掲載回数	目標値	－	－	1回	1回	2回	2回
	実績値	0回	0回				

(3)コスト 単位：千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	1025	777	(1,205)
うち一般財源	1025	777	(1,205)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○岩国大竹道路工事に伴う試掘調査2件，発掘調査2件が実施され，保全を要する遺構等について，国土交通省広島国道事務所及び広島県教育委員会と協議を行いました。また，発掘調査区域(小方一丁目)の町の成立ち，雁木に関する文献調査を実施しました。
○亀居城関連遺跡見学会1回，小方の町の成立ちについて見学説明会を1回開催しました。
○手すき和紙の工程，道具，原料等の展示や紙漉き体験会を各1回開催しました。
○岩国大竹道路工事に伴う文化財の保存や大竹市指定重要文化財の指定のため文化財審議会を1回開催しました。
※ 平成26年度は，市制施行60周年記念事業として講座の数を増やしていました。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり)　■ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○岩国大竹道路工事施工範囲にある小方地区の遺構の移設保存・活用と，工事予定地区の史跡の保護・保全を，広島国道事務所及び広島県教育委員会と協議して進めます。また，古文書の保存に向け調査研究を行います。 ○亀居城等の郷土史講座，手すき和紙保存に向けた講座を開催します。 ○手すき和紙文化の継承・活用のための市民と協働し，情報発信していくホームページを作成します。 ○文化財の掘り起しや記録の整理による年代，分野等の基礎資料を作成することで，文化財保護・活用を図ります。市指定重要文化財の指定及び文化財保護・活用のため審議会を開催します。

4 評価委員意見

○ホームページや講座をさらに充実させ，広く発信して欲しい。
○郷土の歴史についての関心度が低く，資料を保存し公開できる民族資料館のような施設の必要性を感じている。

評価シート

事業名	文化祭等開催事業	担当課名	生涯学習課
		担当係名	社会教育係

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	5 心にゆとりを感じるまち
	施策の方向	2 大竹らしさを育む文化と交流
	主要な施策	② 芸術・文化活動の推進
(2)(H31年度末に)めざす姿	○展示・鑑賞・交流の機会を充実させることで，文化・芸術に親しみ，心にゆとりや豊かさをもたらす文化・芸術活動に参加する市民が増加しています。	
(3)実現に向けての課題	○文化祭・公民館まつりなどにおいて，発表・出品者に固定化の傾向が見られます。新たに文化芸術活動に取り組みたいと感じられる環境を整えていく必要があります。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○大竹市文化祭として華展，美術展，盆栽展，工芸展，茶会，川柳大会，短歌大会及び芸能の祭典を19部門で開催しました。 ○市役所ギャラリーとして，美術展の出展作品の中から選出された作品を，6～11月(15点)，12～5月(21点)の2期に分けて市役所内に展示しました。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
市文化祭の来場者数	目標値	－	3,100人	3,200人	3,300人	3,400人	3,500人
	実績値	3,316人	3,069人				

(3)コスト 単位:千円	H26	H27	H28(予算)
事業費	789	768	(783)
うち一般財源	789	768	(783)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK＆ACTION)

(1)結果判定

□ 目標以上の成果を達成　■ 概ね目標の成果を達成　□ 目標とする成果が得られなかった

(説明)

○来場者が前年度から減少しているため，事業内容の見直しと来場者の増加に向けた新たな取り組みが必要です。
○委託先である文化協会の会員の減少や高齢化が，文化祭で行う大会・展示会の減少など，市文化祭の活性化に影響を与える要因となっているため，会員増加に向けた取り組みが必要です。

(2)今後の方向性

事業状況	□ 継続(現状どおり)　■ 継続(変更・改善)　□ 完了 □ 廃止　□ 休止・一時中断 (期間:H　年度～H　年度)
事業費	□ 拡大　■ 概ね現状どおり　□ 縮小
取組内容	(説明) ○来場者の増加が見込める魅力的な内容とするため，展示方法や舞台構成，演出方法などの見直しや，作品販売・バザーの開催，保育所や小中学校の参加等の地域と協働した取り組みについても検討します。 ○文化祭として行う大会・展示会の数が減少傾向にあるため，新たな大会・展示会の開催等を検討し，市民が芸術や文化に触れる機会の増加を図ります。

4 評価委員意見

○来場者を増やすため，市外へも宣伝を拡大すべきではないか。

評価シート

事業名	社会教育施設等の再編	担当課名	生涯学習課・(企画財政課)
		担当係名	施設スポーツ係・(企画係)

1 事業概要(PLAN)

(1)総合計画後期基本計画施策体系	基本目標	6 行政・社会のしくみづくり
	施策の方向	2 健全な行財政運営の推進
	主要な施策	① 計画的で効率的な行財政運営
(2)(H31年度末に)めざす姿	○「社会教育施設等の再編基本方針各論(平成27年4月策定)」における個別施設の方向性の再検討結果が出ています。 ・生涯学習課所管施設の方向性 ・当面存続(次々期基本計画策定までに再検討) : 栄公民館, 玖波公民館, 自然の家やかさ, 海の家あたた ・存続 : 総合市民会館, 総合体育館, 図書館, 大竹会館(新館), アゼリアホール ・廃止 : 大竹会館(旧館), 小方公民館(部屋・体育館)	
(3)実現に向けての課題	○「社会教育施設等の再編基本方針 各論」では,「人口が減少するなか, 今後全ての施設をこのままの規模で維持するのは難しいため, 施設や機能を集約しながら, 全体として規模を縮小していく」という考えに基づいており, 地元住民, 利用者及び議会の理解と協力が不可欠です。	

2 実施状況(DO)

(1)実施内容	○「社会教育施設等の再編基本方針総論(平成24年3月策定)」に沿って, 効率的に施設を運用します。 ○小方公民館の廃止・体育館解体に伴い, 地元住民・利用者への説明を実施します。 また, 研修室部分の機能を再編し, 方向性を決定します。 ○大竹会館(旧館)の廃止に伴い, 地元住民・利用者への説明を実施します。 また, 新館の改修・利用方法を協議し, 方向性を決定します。

(2)実績

指標項目		基準値H26	H27	H28	H29	H30	H31
社会教育施設等の個別計画策定率(方向性が決定したもの)	目標値	-	→	→	→	→	100.0%
	実績値	0.0%	16.7%				

(3)コスト 単位:千円

	H26	H27	H28(予算)
事業費	0	0	(76,500)
うち一般財源	0	0	(5,500)

3 結果判定及び今後の方向性(CHECK&ACTION)

(1)結果判定	□ 目標以上の成果を達成 ■ 概ね目標の成果を達成 □ 目標とする成果が得られなかった (説明) ○平成27年2月に「社会教育施設等の再編基本方針 各論」の内容の説明を議会に行いました。 ○小方公民館の廃止・体育館解体に関しては, 平成27年度6月から地元自治会への説明を開始し, 10月から利用者団体(文化・スポーツ)への説明を開始しました。また, 国土交通省と補償に関する協議を引き続き行いました。 ○小方公民館研修室部分の機能・方向性については, 引き続き, 関係課において検討を行います。

(2)今後の方向性

事業状況	■ 継続(現状どおり) □ 継続(変更・改善) □ 完了 □ 廃止 □ 休止・一時中断 (期間:H 年度～H 年度)
事業費	□ 拡大 ■ 概ね現状どおり □ 縮小
取組内容	(説明) 【小方公民館】 地元自治会, 利用者団体及び議会に引き続き説明を行うとともに, 国土交通省と補償に関する協議を行います。また, 研修室部分の機能・方向性については, 関係課と協議を行います。小方公民館の廃止に伴い「大竹市立公民館設置及び管理条例」と「公民館使用条例」の改正議案を議会に提出します。 【大竹会館】 旧館部分は解体し, 一部機能を新館に移転させ, 新館は今後の施設の利用方法を踏まえた改修を行うため, 関係課において管理方法を含めた改修計画の検討を行います。

4 評価委員意見

○単年度の目標が立てにくい事業であるが, 計画的に取り組んで欲しい。
○市長部局と連携し, 社会教育活動等に支障が生じないよう, 施設の再編に取り組んでもらいたい。

Ⅲ　教育委員会の活動状況

Ⅲ　教育委員会の活動状況

1　委員選任状況　　（平成 28 年 3 月 31 日現在）

職　名	名　　前	任　　期	備　考
教　育　長	大石（おおいし）　泰（ゆたか）	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 30 年 3 月 31 日	
委　　員 （教育長職務代理者）	畠中（はたけなか）　透（とおる）	平成 28 年 3 月 15 日～ 平成 32 年 3 月 14 日	
委　　員	新矢（にいや）　佳弘（よしひろ）	平成 25 年 10 月 1 日～ 平成 29 年 9 月 30 日	保護者
委　　員	中田（なかた）　美穂（みほ）	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 9 月 29 日	保護者
委　　員	川口（かわぐち）　洋子（ようこ）	平成 27 年 4 月 1 日～ 平成 28 年 12 月 10 日	

※教育長の任期は３年
※委員の任期は４年（ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間）

2　教育委員会会議の開催状況

委員会会議では，教育行政に関する基本的な方針などについての審議を行い，市教育行政の具体的施策の実施，向上を図っています。

会議は，毎月１回の開催を原則としていますが，総合教育会議や必要に応じて研修会に参加しています。

【平成２７年開催状況】

○第１回　平成２７年１月３０日

区　分	内　　容
現地視察	玖波小学校視察及び学校の取組について
審議事項	大竹市青少年問題協議会委員の委嘱について
	大竹市立小中学校職員服務規程の一部改正について
	大竹市就学援助費支給要綱の一部改正について
協議事項	平成２６年度学力調査結果と取組について

○第２回　平成２７年２月２７日

区　分	内　　容
審議事項	大竹市放課後児童クラブ指導員に関する規程の一部を改正する訓令の制定について
	選挙運動のためにする個人演説会等の開催のために必要な設備の程度等に関する規則等の一部を改正する規則の制定について
	教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について
	平成２７年度大竹市学校給食標準価格について
	平成２７年度学校給食納入食糧品業者の選任について
協議事項	社会教育施設等の再編基本方針（案）　各論

○第３回　平成２７年３月２７日

区　分	内　　容
審議事項	大竹市奨学金貸付審議会委員の委嘱について
	大竹市給食センター運営委員会委員の委嘱について
	大竹市青少年問題協議会委員の委嘱について
	職員の人事異動について
	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う関係規則の整理等について
	学校長その他教育機関の長に対する事務委任規程の一部改正について
	大竹市教育委員会職務権限規程の一部改正について
	教育長の勤務時間，休暇等に関する規則の制定について
	教育長職務代理者の指名に関する規則の制定について
	大竹市教育委員会外部評価実施要領の一部改正について
	体育功労者表彰規程の一部改正について
	大竹駅伝競走大会功労者表彰規程の一部改正について
	太竹市長の権限に属する事務の一部委任について
	大竹市教育委員会事務局事務分掌規則の一部改正について
	大竹市公園等運動施設使用規則の一部改正について
	大竹市教育委員会公印規則の一部改正について
	大竹市こども相談室の設置に関する規則の一部改正について
	自家用車の公務使用に関する取扱要領の一部改正について
報告事項	大竹市立小学校及び中学校の校長並びに教頭の任免に係る内申について

○第４回　平成２７年４月３０日

区　分	内　　容
審議事項	平成２８年度大竹市使用教科用図書の採択に関する基本方針の制定について
	大竹市教科用図書採択地区の採択事務に関する規約の一部改正について
報告事項	大竹市費負担教員に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	技能業務職員の給与に関する規程の一部改正について
	大竹市就学指導委員会委員の委嘱について
	大竹市立小中学校結核対策委員会委員の委嘱について

○第５回　平成２７年５月２９日

区　分	内　　容
審議事項	教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について
	大竹市給食センター運営委員会委員の委嘱について
	大竹市社会教育委員の委嘱について
	大竹市青少年問題協議会委員の委嘱について

○第６回　平成２７年６月２６日

区　分	内　　容
審議事項	大竹市給食センター運営委員会委員の委嘱について
	大竹市学校給食調理業務等委託民間事業者選考委員会設置要綱の制定について
報告事項	大竹市立学校の位置の変更について

○第７回　平成２７年７月１６日

区　分	内　　容
審議事項	選挙運動のためにする個人演説会等の開催のために必要な設備の程度等に関する規則及び選挙運動のためにする個人演説会等の施設の使用のために納付すべき費用の額を定める規則の一部改正について
協議事項	大竹市内小・中学校における生徒指導上の諸問題について

○第８回　平成２７年８月１２日

区　分	内　　容
審議事項	平成２８年度大竹市使用特別支援学級用教科用図書の採択について
	平成２８年度大竹市使用教科用図書の採択について

○第９回　平成２７年９月２５日

区　分	内　　容
審議事項	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
	大竹市青少年問題協議会委員の委嘱について
報告事項	教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について
	大竹市職員参集メール配信システム運用規程の廃止について
	大竹市奨学金貸付審議会委員の委嘱について

○第１０回　平成２７年１０月２６日

区　分	内　　容
現地視察	玖波小学校・玖波中学校視察について
審議事項	大竹市自然の家やさか設置及び管理条例施行規則及び大竹市海の家あたた設置及び管理条例施行規則の一部改正について
	大竹市公園運動施設等使用規則の一部改正について

○第１１回　平成２７年１１月２５日

区　分	内　　容
審議事項	教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について
協議事項	小中学校の規模適正化について

○第１２回　平成２７年１２月２２日

区　分	内　　容
報告事項	教育に関する他の職を兼ねることについて
協議事項	学力調査及び体力・運動能力調査の結果と分析について

【平成２８年開催状況】

○第１回　平成２８年１月２６日

区　分	内　　容
現地視察	大竹中学校視察及び学校の取り組みについて

○第２回　平成２８年２月２６日

区　分	内　　容
審議事項	教育に関する市議会提出議案に対する意見の申出について
	平成２８年度大竹市学校給食標準価格について
	平成２８年度学校給食納入食糧品業者の選任について
協議事項	平成２８年度大竹市教育委員会学校教育概要図(案)について

○第３回　平成２８年３月２８日

区　分	内　　容
審議事項	大竹市教育委員会職名規則の一部改正について
	大竹市教育委員会事務局事務分掌規則の一部改正について
	大竹市教育長に対する事務委任等規則の一部改正について
	大竹市立小中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部改正について
	大竹市教育委員会職務権限規程の一部改正について
	大竹市給食センター設置条例施行規則の一部改正について
	職員の人事異動について
	大竹市給食センター運営委員会委員の委嘱について
	大竹市スポーツ推進委員の委嘱について
報告事項	大竹市立小学校及び中学校の校長並びに教頭の任免にかかる内申について
協議事項	平成２８年度大竹市教育委員会学校教育概要図(案)について
	平成２８年度大竹市教育委員会生涯学習・社会教育概要図(案)について

3　総合教育会議の開催状況

総合教育会議とは，首長と教育委員会が，相互の連携を図りつつ，より一層民意を反映した教育行政を推進していくため，地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置される会議です。

【平成２７年度開催状況】

開催日	内　容
平成２７年７月１６日	・大竹市総合教育会議の運営について ・大竹市教育施策大綱について
平成２８年３月２８日	・大竹市教育施策大綱について

4　研修会等への参加状況

【平成２７年度】

研修名	内　容
広島県市町教育委員会教育委員研修会	・講演 「学校での防災教育を実質化するために」 山口大学大学院理工学研究科 准教授　瀧本　浩一　氏 ・実践発表 「『あきらめない』生徒の育成と学力向上」 神石高原町立三和中学校　校長　小松葉子　氏 ・講話 「広島で学んで良かったと思える日本一の教育県の創造」 広島県教育委員会　教育長　下﨑　邦明　氏
大竹市・岩国市・和木町教育委員合同研修会	・川下中コミュニティスクールの取組み視察 ・授業研修・参観等

5　その他の活動状況

項　目	内　容
学校訪問	・入学式，卒業式，運動会，体育祭等
その他	・教育委員会主催事業への出席（成人式，マラソン大会等） ・市内各地区運動会への出席

6　教育委員会活動の判定説明及び考察

教育委員会の活動については，定例的に教育委員会会議を開催するほか，各種研修や行事に参加をして，委員の研鑽に努めています。

平成２７年度は，「２　教育委員会会議の開催状況」における「協議事項」のとおり，本市の教育行政上の課題を協議事項として採り上げ，取組の方向性や方針について活発な議論をしています。

教育を取り巻く著しい環境の変化により，教育の抱える課題も多様化しています。学校や地域が直面している課題を把握するためにも，学校訪問や地域行事へ参加をするなど，教育現場や地域との連携を深めていくとともに，近隣市町の教育委員会との連携を図ることが必要になってくると考えられます。

参　考　資　料

大竹市専門委員設置要綱

（設置）

第１条　市に，地方自治法（昭和２２年法律第６７号）第１７４条に規定する専門委員を置く。

（名称等）

第２条　専門委員の名称，担任事項，定数，任期及び庶務担当課は，別表のとおりとする。

（職務）

第３条　専門委員は，市長又は教育委員会（以下「市長等」という。）が委託した担任事項について調査又は研究し，市長等に報告又は助言を行うものとする。

（委嘱）

第４条　専門委員は，学識経験を有する者のうちから市長が委嘱する。

（補欠専門委員の任期）

第５条　専門委員に欠員が生じた場合における補欠専門委員の任期は，前任者の残任期間とする。

（守秘義務）

第６条　専門委員は，職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も，同様とする。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか，必要な事項は，市長が別に定める。

附　　則

（施行期日）

１　この要綱は，平成２５年６月２８日から施行する。

（経過措置）

２　この要綱の施行の際，現に改正前の大竹市大規模小売店舗立地協議会設置要綱（平成２１年８月１日制定）第３条第２項の規定により委嘱された委員は，第４条の規定により委嘱された大竹市大規模小売店舗立地専門委員とみなす。この場合において，専門委員の任期は，この者が委嘱された日から起算する。

（大竹市大規模小売店舗立地協議会設置要綱の一部改正）

３　大竹市大規模小売店舗立地協議会設置要綱（平成２１年８月１日制定）の一部を次のように改正する。

第３条第１項を次のとおり改める。

協議会は，大竹市専門委員設置要綱（平成２５年６月２８日制定）　別表に規定する大竹市大規模小売店舗立地専門委員（以下「委員」という。）をもって組織する。

第３条第２項を削る。

第４条を削り，第５条を第４条とし，第６条を第５条とする。

第７条第５項中「第５条第２項及び第３項」を「第４条第２項及び第３項」に，「第６条」を「前条」に改め，同条を第６条とし，第８条を第７条とし，第９条を第８条とする。

附　　則

この要綱は，平成２７年４月１日から施行する。

別表（第２条関係）

名称	担任事項	定数	任期	庶務担当課
大竹市大規模小売店舗立地専門委員	大規模小売店舗立地法（平成１０年法律第９１号）第４条第１項の指針に基づいて大規模小売店舗を設置する者がその施設の配置及び運営方法について配慮すべき重要事項	６人以内	２年（ただし，再任を妨げない。）	産業振興課
大竹市健康増進計画及び大竹市食育推進計画策定委員会専門委員	大竹市健康増進計画及び大竹市食育推進計画の策定に必要な専門的事項	１０人以内	委嘱した日から，当該計画が策定されるまで	社会健康課
大竹市教育委員会外部評価専門委員	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２６条第１項に規定する次の事項 （１）　教育委員会が行った事務・事業の点検・評価に関する事項 （２）　その他必要な事項	３人以内	委嘱した日から，その日の属する年度の末日まで	総務学事課

備考　大竹市教育委員会外部評価専門委員は，地方自治法第１８０条の７の規定により教育委員会の委託を受けてその職務を行うものとし，当該専門委員の委嘱事務は，同法第１８０条の２の規定により教育委員会事務局において補助執行するものとする。

大竹市教育委員会外部評価実施要領

（趣旨）

第１条　この要領は，地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２６条の規定に基づき，大竹市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する事務・事業の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに当たって，地域の実情と住民ニーズに応じ，より効果的な教育行政の推進に資するとともに，事務・事業の管理及び執行の状況についての透明性の確保と市民への説明責任を果たすため，必要な事項を定めるものとする。

（外部評価の実施）

第２条　教育委員会は，その権限に属する事務・事業の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い，当該点検及び評価について，大竹市専門委員設置要綱（平成２５年６月２８日制定）別表に規定する大竹市教育委員会外部評価専門委員（以下「専門委員」という。）の意見を聴くものとする。

（会議）

第３条　教育委員会は，専門委員の意見を効率よく聴くため，会議を開催することができる。

２　会議は，専門委員の半数以上が出席しなければ開催することができない。

３　会議は，原則公開とする。ただし，公開することが相当でないと教育委員会が認めるときは，この限りでない。

（庶務）

第４条　会議の庶務は，教育委員会事務局総務学事課において行う。

（委任）

第５条　この要綱に定めるもののほか，必要な事項は，教育委員会が別に定める。

附　　則

この要領は，平成２５年６月２８日から施行する。

附　　則

この要領は，平成２７年４月１日から施行する。